



黒島の集落

黒島に移住した潜伏キリシタンは、牧場の跡地を耕して住み着き、島内に6つの集落を作った。写真は黒島天主堂が建つ名切集落

潜伏キリシタンの移住によってできた集落

佐世保の九十九島の一つに数えられる黒島。当初、仏教徒が住んでいましたが、19世紀初頭、平戸藩がそれまで馬の放牧場として使用していた島への入植を許可したところ、外海などから多くの潜伏キリシタンが移住しました。彼らは、表向き所属していた仏教寺院で密かにマリア観音像に祈りを捧げていて、仏教寺院や仏教集落から干渉を受けなかったことなどが、信仰の継続につながりました。

大浦天主堂での信徒発見後、指導者の出口大吉でくちだいきちら20人は長崎に渡り、黒島に600人の潜伏キリシタンがいる状況を報告。その後、外国人宣教師が黒島を訪れ、彼らを指導しました。

解禁直前の1872年に、黒島の全ての潜伏キリシタンがカトリックに復帰すると、出口大吉は自宅に仮の聖堂を置きました。そして1880年、島の中心部に木造の初代教会堂が建設され、1902年には現在のレンガ造りの教会堂が完成しました。

黒島は今でも人口の約9割がカトリックという祈りの島です。

問合せ 県の世界遺産登録推進課 ☎095-894-3171

長崎から世界遺産を 検索



潜伏キリシタンの指導者屋敷跡

まだ禁教が解かれていない1872年、長崎からポアリエ神父を招き、水方屋敷であった出口家宅を仮聖堂にして、黒島で初めてのミサが行われた。現在、出口家宅跡は「信仰復活之地」として記念碑が建てられ、黒島に住む信徒にとって大切な場所となっている

県では、皆さんからの寄附をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業を行います。ご協力をよろしく願います。

長崎県 構成資産へ寄附 検索

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて

密かな信仰の証

7 黒島の集落

(佐世保市)